

平成 28 年度 第 3 回 ふれあい 座談会

| | |
|---|---|
| 主催 | ふじみ野市視覚障害者の会「あいあい」 |
| テーマ | 視覚障がい者に対する、ふじみ野市での生活に係るさまざまなバリアフリー化について |
| 日時 | 平成 29 年 3 月 14 日 (火) 午後 1 時 30 分～3 時 |
| 場所 | 大井総合福祉センター4 階第 2 会議室 |
| 参加者 | 11 名 |
| 市出席者 | 市長、福祉部長、秘書室長、広報広聴課長、広報広聴課主査 |
| <p>《主な意見等》</p> <p>広報広聴課長 はじめに、高畑市長よりご挨拶を申し上げます。</p> <p>市長 今日はこのような機会を作っていただき、ありがとうございます。私は就任以来、市民の皆さんとお話することをモットーにしています。今日は皆さんと直接お話をし皆さんの思いを聞き、市政に反映させていきたいと思っています。普段から行っているタウンミーティングや、今日のふれあい座談会のようにいろいろな団体の皆さんと話していますが、遠慮なくお話しいただきたい、本音の話ができる場でありたいと思っています。お一人お一人の声でこのまちが大きく変わることもありますので、今日は忌憚のないご意見をいただきながら会を進めていきたいと思っています。よろしく願いいたします。</p> <p>広報広聴課長 それではこれより黒川会長に進行をお願いします。</p> <p>黒川会長（進行） 最初に会でまとめた質問を私から行い、その後個人的な意見を遠慮なく発表してもらえればと思います。まず、私たちの目的である情報伝達の方法について市の考えと私たちが何を望んでいるか、またタウンミーティングについて、移動手段について、そして日常生活について私たちが困っていることや要望を伝えていきたいと思っています。</p> <p> まず最初の情報伝達についてですが、市報のキャッチの仕方（媒体）について、今はカセットテープで広報広聴課から受け取っていますが、点字、デージー、SP コードなどいろいろな形で受け取る方法があるので、今後の取り扱いにおける市の意向を伺いたいです。また担当課から届く文書やアンケートへの回答方法も含めて、一本化することは難しいとは思いますが、私たちがどのように情報を受け取りどのように回答したらよいかということが問題になっています。</p> <p> また、先ほど市長からタウンミーティングのお話がありましたが、私た</p> | |

ちがその開催会場へ行くまでの方法や、会場に着いてから室内での案内があるのかなど、困ってしまうことが多くあります。こうしたことから、視覚障がい者がなかなかタウンミーティングに参加できないという現状があります。

また移動手段について、以前のマイクロバスでは音の違いで車の到着を知ることができましたが、市内循環ワゴンでは音の違いが分かりません。ワゴンが来ても分からないので手を挙げることもできず、なかなか利用できません。今はお出かけサポートタクシー制度を使用していますが、例えばバスに音楽を流してもらい、バス停に来たら警笛を鳴らしてもらった形で視覚障がい者に分かるようにしてもらえたらと思います。また可能であれば、歩道に点字ブロックを設置していますが、弱視者用に白線を引いてもらいたいと思います。車道の白線を伝って歩くことは危険なので、目立つ線を引いてもらえれば弱視者も安全に歩けるといった話も出ています。

以上が会の要望としてのお話ですが、この後は個人的に生活で困っていることがありましたら、遠慮なく質問してください。

広報広聴課長 ここで一度、市長から回答を申し上げます。

市長 情報伝達手段について、市としてはデイジーが主流になりますか。

福祉部長 個人個人の状況に応じます。現在市役所の担当課からは、SP コードを付けて発信していることが多いと思います。市報はデイジーで対応できるのですか。

広報広聴課長 デイジーの使用率が低い中でデイジーに移行するよりも、現在デジタル機器としてカセットテープが見直されてきていることもあり、利用する皆さんがカセットテープを希望されるのであればこれを継続していく考えもあります。これは利用者皆さんの状況によって判断するものだと思います。現在市報はカセットテープの他、ホームページで音声データの公開も行っています。

市長 いろいろな方法を使いながら、なるべく皆さんが情報を得やすいような形を取っていきたいと思います。専用機器については市の手当を使いながら用意できるものもあると思います。

進行 統一した方法にしないと、情報伝達媒体の出来上がる日がまちまちになってしまいます。

広報広聴課長 現在作製している点字5部、カセットテープ34本はそれぞれ専門機関に製作を依頼しており、完成日に多少のずれが生じていることはあるかもしれませんが、自治体によっては地域のサークル団体などに依頼していることもあるようです。ふじみ野市でもそのような（サークルに依頼する）話をしたことがあるのですが、情報量の多さや期限などで団体が責任を負うところが多く、現在は専門機関に作製依頼をしています。市の意向としてデイジーに替えるというのではなく、利用する皆さん次第だと思います。

進行 個人的には点字をなくされると困ります。一方カセットテープは頭出しができないので、自分の知りたいことをすぐに見せる点字と違って最後まで聞かないと内容が分かりません。デイジーは機器の購入費用がかかるということと、操作のための講習を受けなければ使用が難しいということがあります。埼玉点字図書館から講師が出張してくれるそうですが、会の総意としてデイジーを使用するという結論が出ていないので、市が情報提供方法を統一するのであればそれに従っていかうかという話になっています。個々の希望に対応していただけるのであればありがたいですが。

市長 「点字広報」と「声の広報」の利用は、「あいあい」の方だけですか。

広報広聴課長 違います。障がい福祉課経由で利用希望者を把握しています。

市長 点字は読める方が少ないと聞いていますので、耳から情報が入る方が分かりやすいのかと思います。また、市内在住の視覚障がいのある方で「あいあい」に入っている方はごく一部で、できればこうした会に皆さんが参加されて、まとまったご意見を伺うことができればよいと思います。会員を増やす方法について以前会長さんからご相談もありましたが、個人情報保護のこともあって会からはなかなか該当の方に発信できないかもしれませんが、例えばこの会の存在を市役所から伝えていくことは可能だと思います。実際に、東日本大震災発生後、被災地からふじみ野市に避難して来た方々が、定期的に避難者交流会を行っているのですが、市から避難者個人個人に会の活動をお教えしたことで交流ができ、会に参加して顔見知りの方と会うことができたといったことなどで登録者数が増えたということがありました。これと同様に、「あいあい」の活動をまず市から伝えて、関心を持つ方が会に連絡をするという流れで会員が増えるといいと思います。

進行 実は何年も前から呼びかけているのですが、民生委員の集まりなどに参

加させてもらった時に、例えば民生委員は地域を回っているので住民の生活状況など把握されていると思うので、視覚障がいのある人に伝えてもらえるように自分の連絡先を教えてくださいが、残念ながら1件も問い合わせがありません。市役所の窓口でも障害者手帳の申請手続きの時などに、視覚障がい者の会があるということを案内してもらいたいと願っているところですよ。

福祉部長　　今までも各種団体の案内は窓口で行っています。

市長　　初めて参加してみようという一歩はなかなか踏み出しにくいものです。

進行　　何かの催し物をしていただけるとありがたいです。視覚障がい者との関わり方やサポートの仕方など、視覚障がい者と健常者が集まることのできる場を設けてほしいと思います。障がい者が閉じこもらず、コミュニケーションの取れる場所を作りたいと思っています。

市長　　視覚障がいのある方との「市長と語る会」のようなものを開催すれば、その場に参加した方に会の案内をすることもできるし、直接話をすることもできます。

進行　　都内では健常者と視覚障がい者がゲームを行うなどで触れ合うイベントを毎月行っているところもあります。そういった機会があればよいと思いますが、ここで問題になるのが移動する手段です。ボランティアが現地まで連れて行ってくれるなどあれば参加もできますが、1人ではなかなか会場に行くことができません。また会場も遠いに行くことができないなどあり、健常者の賛助会員が協力してくれるとよいと思います。学校で福祉学習の講義を行うこともあって、子どもたちは道で会っても声を掛けてくれるのですが、大人はそうもいきません。

市長　　先ほども話がありましたが、会に入ってくれというのではなくても、視覚障がいのある方々に会の存在を紹介したり、悩みなどを直接市長と話す機会を設けたりして、少しでも多くの人に参加してもらうことが必要かと思います。その際には開催場所や移動手段が問題になりますが、例えば一人一人のお宅に迎えに行くことはできなくても、大井総合支所に集合してもらえれば会場まで送迎するといったことができればよいと思います。移動の支援については難しいものがありますが、いずれにしても一度、そういった機会を設けてみてもいいかと思います。

進行 以前はシャトルバスがあって助かっていたのですが。

市長 バスの台数をよほど増やさないと、市内をくまなく回ることはできません。そこでお出かけサポートタクシーを始めました。タクシー会社に協力してもらい、65 歳以上の人、妊婦、小さいお子さんのいる人、障がい者の皆さんに登録していただき活用してもらっています。実施後に挙げた課題の解決として共通乗降場の増設なども行っています。また相乗りなどは料金負担を軽くするためにもおすすめしているのですが、例えば1人が途中で降りたいといったことには対応できません。こういった課題にも今後対応していこうと思います。ただバスやタクシーは陸運局の認可をもらって行うもので、運行条件に制約がありますので、その中でもなるべく皆さんが利用しやすいように改善していきたいと思います。

進行 市でマイクロバスを購入する予定はありますか。

市長 それはありません。以前は所有していましたが、時代とともに廃止していく流れになりました。バスを買って維持するより、必要な時に代金を払って借りる方がいいと思います。

進行 もし市にバスがあれば、そのバスで郊外などに出て、健常者と視覚障がい者が団体で動くこともできると思います。

市長 「あいあい」のような団体に入っていない方は1人だと表に出る機会を作りにくいこともあると思います。例えば団体でも視覚障がいのある人の集まりでも、外に出る機会を作るための活動に必要な移動手段にかかる補助など、若干でも市からできるならと思います。そのためにも、もう少し会の人数が増えると助かるだろうと思います。

進行 私たちは県のおおぞら号（バス）を借りて年に1回旅行しています。そういったイベントの時は大勢集まってくれるのですが、終わってしまうとそれきりになってしまいます。集まる場所を決めて、そこへどのようにうまく連れて行くか（行ってもらえるか）という問題が解消されれば、うまくいくのではないかと思います。また、遠出をするにはどうしても費用がかかってしまうので、市内の施設を借りていろいろなことを行いたい、例えば体育館で体育館系の事業、公民館で文化的事業など、いろいろ考えていますが、何をすることも書類を書かなければいけないので、健常者のボランティアの協力が必要です。社会福祉協議会にも、ボランティア活動にもっと参加してもらいたいと声を掛けるのですが、派遣がなかなかないと言

われます。

参加者 テルミーは皆さん持っていると思いますが、SP コードを市報に仕掛けてもらうことはできませんか。

進行 本にしてしまうと差し込みがうまくいかないと聞いています。また先日、パブリックコメントの関係でテープを聞きましたが、最初に長い説明が入っていて、聞き続けることが困難に感じる時があります。最初から本文で始まるようにしてもらうことはできませんか。

広報広聴課長 利用者の中には「あいあい」に入っていない方もおり、いきなり本文から始めてしまうと戸惑われる方もいるかと思っています。

進行 説明を後に入れることはできませんか。

広報広聴課長 それは可能です。では次回は説明が後に流れるよう入れ替えて作製して、皆さんに聞いてみていただきたいと思います。

市長 使い方さえ分かっとうまく使えるなら、デイジーの方がいいですか。

進行 覚えてしまえばデイジーの方が簡単です。

福祉部長 市から給付できる日常生活用具（非課税世帯は自己負担なし）のデイジーは、録音と再生のできるものが約 85,000 円、再生だけなら約 35,000 円です。録音はあまり使わないと思いますので、再生だけであれば使い方はそれほど複雑ではありません。

進行 頭出しや途中からの再生も楽にできます。カセットテープだとずっと聞いていなければなりません。

市長 機器の入手も、所得のある方には自己負担していただいておりますが、所得のない方には給付という形で市から用意できます。

進行 もし皆さんがデイジーを希望されるなら、講習をしてもらうこともできます。1人ではだめなので、何人かまとまった参加者が必要です。

市長 「あいあい」以外にもデイジーの給付を受けている人はいるのですか。

福祉部長 何人かはいます。若い人たちはパソコンのソフトを使っています。

市長 そういう方々が、デイジーの使い方を講習する会を行うというのはいかがですか。

参加者 現在図書館を基盤に朗読を行うボランティアの会で活動していますが、時代の流れからデイジーに移行しましょうと図書館から話がありました。そこで講習を受け始めたのですが、ボランティアが高齢で、教えてもらってもなかなか覚えられません。結局カセットテープだけにしてもらったのですが、図書館側からカセットテープの作製はもう受け付けませんと断られたので、会の活動は止めようという話になっています。

進行 先日大井図書館長などと話し合いをした際に対面朗読のために図書館まで行くことがなかなかできないという話をして、会でデイジーを購入した場合に図書館が指導してくれるか聞いたところ「努力します」と答えてくれました。会員がデイジーを買った場合、講習会を開かなくても個人的に図書館で指導を受けることができますので、デイジーを使えるようになると思っています。可能ならデイジーで統一できれば楽ではないかと思えます。

また、視覚障がい者でスポーツをやっている人などは、ふじみ野市内ではなく自分たちのクラブで行う人が多いようです。障がい者と健常者に分けなくて体育祭を行ってほしい、秋の体育祭に障がい者も参加させてほしいと思います（※）。また以前行っていた自転車部もそれきりになってしまいました。こういった活動にも継続的に応援をしていただきたいと思えます。

また災害発生時には、横のつながりがなくどこに視覚障がい者が住んでいるか分からないため、安否の確認連絡をすることもできません。防災訓練の時などは、視覚障がい者に対してどのような訓練をしたらよいかということについて、事前の意見交換を消防署や市の担当課と行うこともなかったため、避難所に集合しても何のために集まっているのか分からない状態でした。横のつながりを作るためにも、話し合いの機会を設けてもらいたいと思えます。

（※）市で開催する「スポーツフェスティバル」は、事前相談の上、障がい者の参加が可能。

市長 訓練というよりも、万が一の時にどうやって避難するかという計画を作っておかなければなりませんね。避難時の要支援者は登録いただいております、自治組織にも報告してありますので、登録者をどのように避難誘導し

ていくかということを経地域の行動計画として作っておくことが一番大事だと思ひます。

進行 それはできているはずなのですが、避難訓練時に誘いもなければ、いるはずの担当者も一度も来ませんでした。市から簡易トイレの使い方について説明を受けた時がありましたが、そのトイレのある避難所までどのように行けばよいのかなど、避難の話をしたり意見を聞いたりすることが何もありませんでした。名簿は作って届けているのに、一度も連絡がありません。

市長 該当者の中には、ここにこういう人がいるということを知られたくない人もいると思ひます。その配慮をしている部分はあると思ひます。

進行 自分で断っている人はいいと思ひのですが、やりたいという人を放っておくのは違ひと思ひます。

市長 そのことはこれから改善していくよう言ひていきたいと思ひます。

進行 災害が起きた時は、まず玄関まで出て動かず、そこで笛を吹いたり大声で助けを呼んだりする、その家の前を通った人は中で声がしたら助ける、といった行動パターンについて話し合ひがされている自治体もあります。長くふじみ野市に住んでいますが、ここではそのような話し合ひがされたことは一度もありません。市民同士で助け合う、例えば視覚障がいがあるから何もしなくていいということではなくて、できることは一緒にやることが本当の共生、共助ではないかと思ひます。

市長 それぞれの自治組織で役員さんが苦勞していることも事実です。号令をかけたら皆が一斉に動くかといったらそうもいきません。しかし万が一の時のご近所の助け合ひは当たり前で、健常者同士でさえそうなので、障がいのある人にはそれ以上に手を差し伸べる必要があります。誰かがリーダーになって、地域ごとに活動していかなければならないのだと思ひます。また、少人数で訓練しても、助ける側の人間がけがをしたら助けられなくなってしまうので、誰がどこに住んでいるかという周知と、災害時に家から逃げている場合に、逃げましたということを示す目印をしておくことが大事です。身体に障がいがあつて動けない人や視覚障がいのある人、聴覚障がいのある人などいろいろな状況に違ひがあると思ひるので、そういったことも担当課に話をし、訓練のみでなく万が一の時の対応を計画的に作って、訓練時にもそれが生かされるように、一緒に参加していた

だこうと思います。

参加者 散歩をされていて路地に入ると、道路の白線がほとんど消えています。白線があるだけでも、信号のない範囲は歩けるのですが、ほとんど消えているので困っています。

市長 順次引いているのですが、大通りが優先になってしまいます。車の通り方などで消えやすい道もありますので、なるべく直していきたいと思います。

進行 さくら通りの車道に引いてある白線を歩道に移すことはできませんか。

市長 路側帯の白線は歩道には引けません。会長のご提案で歩道に白い線が引いてあれば弱視の人も歩きやすいというものがありました。どこにどこまで施せばよいかといった問題があると思います。駅から市役所など一定の目標物があれば引きやすいですが、皆さんに公平に実施しなければいけないとなると難しいと思います。ただ、歩道を整備するときには何か目印を付けるなどの工夫ができないかと思いました。

進行 車道と歩道の十字路の部分に白線があると、弱視の人も車道に出ているのか歩道にいるのか分かると聞きました。長い線ではなくても、車道と歩道の区切りが分かるようにしてもらえると、もっと歩きやすいと思います。また、大井総合支所の前にある点字ブロックが剥がれて浮いていたのですが、道路課に連絡したらすぐに修理してくれました。

参加者 近くのセブンイレブン前の点字ブロックと白線もぼろぼろになっています。一度見てください。（※道路課に連絡済）

参加者 20年ほど前に市で開催した盲人ボランティアの講習会がありましたが、最近が開催されていないようですので、またボランティアのための講習会を開催してほしいと思います。現在会に属している人は有償ボランティアですが、私たちは無償ボランティアで、お手伝いとして活動できれば一番よいと思っています。そうすれば視覚障がいの人を少し誘ってお散歩に行く、お買い物に行くといったことがヘルパーさんとは別に携われると思います。そのような方を大勢育てていただきたいので、若い方を対象に講習会を開いていただきたいと思います。私も50代の時に講習会を受けました。それ以来活動していますが、無償でただ一緒に歩きながら話しましょうということも、講習を受けていないとできない、と若い人たちから

聞きますので、講習を開催していただきたいと思います。

市長 分かりました。貴重なご意見ありがとうございます。また先ほどの図書館のお話ですが、今まで録音したカセットテープは図書館が保存し、資料として利用者が利用したり貸し出したりしているのですか。

参加者 そうしているようですが、資料の存在を広報することがなかなかできていないようです。

進行 先日の図書館との話し合いで、市報で近々紹介することになっています。ふじみ野市の図書館の録音図書所蔵数は県内でも有数だと思います。図書館からもっと宣伝してほしいと思います。

市長 デイジーに替わったら資料を聞くことはできますか。実際に聞く人が機器を使えないと意味がないと思います。先ほどの話のように講習会を行うのであれば、市で機械を用意することは可能です。使ったことのない人は難しいと尻込みするかもしれませんが、実際に実物を使って講習を受ければ、再生の操作は簡単にできるようです。

福祉部長 市役所の窓口に再生用の機器を 1 台設置することもできると思います。

市長 せっかくですので講習の機会を設けて、一度試してみることがよいと思います。またそのような機会を設けることを広く呼び掛けて、会以外の方々に参加してもらうことがよいと思います。

進行 図書館と一緒に習っていきたいと思います。

市長 市内の視覚障がいのある人がデイジーの操作を簡単だと分かるようになれば、市報もそれに伴ってデイジー化し、ゆくゆくはより多くの方に聞いていただけるようにもなると思います。まずは実行に移していただければと思います。

広報広聴課長 時間になりましたので、市長よりお礼の言葉を申し上げます。

市長 障がいの種別や有無にかかわらず、市への要望は誰もが持つものですが、その思いを実現するためには市民の皆さんが納めていただく税金を使っていかなければなりません。厳しい財政状況にあって優先順位を付けて

行政運営をしていかなければならない中、子どもたちや障がい者の方々に対する政策は優先順位の高いものであると思っています。皆が普通に生活していくためには皆で助け合っていくということが一番の基本だと思います。現在機械もどんどん良くなっている時代、デイジーなどを使って平等に情報を得られるよう、我々もお伝えしていかなければいけないと思っています。今日のお話を参考に、取り組みを進めていければと思いますので、これからもよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

広報広聴課長 ではこれを持ちまして、本日のふれあい座談会を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

